

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	令和5年度未来の養父市を語るタウンミーティング（大屋地区自治協）		
期 日	令和5年7月21日（金） 午後7時30分～午後9時21分		
場 所	大屋市民センター大会議室		
出席者	校区民	11人（うち女性 1人）	
	市幹部	広瀬市長、米田教育長、羽瀨経営企画部長、細田産業環境部長、柳川まち整備部長、石田教育部次長	
	特区政策課	栗田、渡邊	
	担当チーム（市）	米田、森崎、栃尾	
1	開会	司会 栗田	19:30～
2	地域代表あいさつ	杉本	19:32～
3	市長あいさつ	市長	19:35～
	市政運営の基本方針	市長	19:46～
4	部局別経営計画	教育部 教育長 経営企画部 羽瀨 産業環境部 細田 まち整備部 柳川 教育部 石田	20:05～
5	地域課題に関する意見交換 20:22～		
		<p>①大杉区も少子高齢化、人口減少、空地の増加、耕作放棄地の増加と、どこの区でも同じだとは思いますが、前後期の賦課金で区の運営を賄っている。予算がつかないと行政はやってはいけませんが、市の5年、10年後の財政見通しについて、過去と現在も含めて大きな流れを知りたい。</p> <p>②厳しい財政状況だとは察しているが、大杉区にある木彫展示館が来年の4月で開館20周年を迎える。木彫フォークアート展も来年30周年だと思うが、20年もの間、毎年5点の作品のストックを行っている。それを保管する場所がないのが現状である。養父市の財産でもあるので、うまく活用できるようにできればと考えるが、作品の置場所について考えてもらえないか。</p>	
	市長	<p>①市の予算等については、議会では説明をしているし、その都度市の広報誌等ではお知らせをしている。ただ、過去から現在まで、また未来へという予算の流れはわかりにくいと思う。市が誕生して20年になる。当時一般会計予算が200億円を超すこともあった。250億円まで膨らんだこともあったかもしれないが、予算規模が大きすぎると考え、200億円程度に圧縮していた。合併したとき、基金も旧町からの持ち寄りであったが、そのかわり借金も大きかった。当時、北海道の夕張市の破綻のこともあり、財政健全化が言われるようになった。ある基準を超えるひっ迫した財政だと国の指導も</p>	

受けることになる。養父市もぎりぎりのところまで財政がひっ迫していたので、行政改革に取り組み支出の制限を行って無駄を省いてきた。22,000人の人口で、一般会計ベースで150～160億円を目標にして、今は健全になってきたと言える。基金もストックでき、万が一の場合にも対応可能となっている。私個人としては、養父市なら150～160億円の予算規模が妥当だと思うが、面積的なものからくる費用対効果も悪く、170～180億円ぐらいで推移している。むこう10年間の収支計画も立てて、それをはずれるような財政支出はしない。プライマリーバランスも考えてと。コロナがあり、市民の生活を守るためにという名目での交付金を受けて、この数年間は予算が膨れている。200億円を超えている状態。150～180億円ぐらいに抑える財政運営ができればと考えている。国との関係や時代の流れのこともあるが、有事に活用できる基金も確保できており、トータルで考えても、将来を憂うことにはならないと考えている。

羽瀨部長

今年度一般会計予算205億円。合併以来4番目の多さの予算となっている。合併時は177億円。少し膨らんではいるが、そのうち13億5千万円は繰上償還ということで膨れている部分はある。施設の営繕費や社会保障費も増加している。基金残高が133億円あり、それを活用しながら健全な財政運営を心掛けている。今は市民各位の協力を得ながらということも心掛けており、ふるさと納税なども含め、財政面での収入も増やしていければと思う。

市長

②木彫フォークアート30周年は、記念になることを考えていきたい。作品が年に5点ずつ増えていることは、保管場所の問題も含めて現実問題として承知している。対応はしたいと思う。

①加保区にある市営住宅だが、10戸中1戸しか居住してなく、雑草が伸び放題でかなり荒れ果てている。通学路になっているが景観もとても悪い。今までは住居されていた方が管理されていたが、その方も入院している状況で、おぎなりになっている。市営住宅なので市の担当課でお盆までになんとかしていただきたい。管理費を出していたのかも確認はしていないが。

②日野橋の欄干が老朽化のためかなり傷んでおり、中の鉄筋が見えみすばらしくなっている。橋には歩道があり、道路より一段高くなっているため、欄干が低い位置となり、子供が転落しないかと心配である。橋梁の早期改修をしていただきたい。

市長

①市道の草刈りができていないということでしょうか。管理費が出たのかはわかりませんが、市道の総延長も伸び続けており、管理は難しいのが現状です。

住宅の敷地の部分であり、市道ではありません。

市営住宅の敷地部分になります。

市長

②日野橋の欄干のことですが、橋梁点検、メンテナンス事業を市でも行っています。何段階かに仕分けして点検を行っています。修繕しなければどうかは判断しているはずだが・・・。

通学路にもなっている道であり、橋梁です。

柳川部長

②橋梁についてですが、現在、国が率先して橋梁等の点検を実施しなければいけないということで、年を追って点検等を行っています。市内に580ある橋梁を3段階に判定し、早急に修繕等しなければいけないものはそのうち8

0 橋梁ある。今聞いたような状態であれば、通学路にもなっている場所でもあり、週明けにでもメンテナンス計画の位置づけを確認します。

市営住宅の草刈りですが、市側のルールで言わせていただければ、お住まいになられている方々にしていただき、市側は燃料費等を支払うということになっています。現実問題として1人でやっていただくということは難しいと思うが、地域の方にも手伝っていただきながらやっていただきたい。それも難しいということであれば市側でも考えなければならぬが、住民協働でのまちづくりをしていただければと思う。

■ 昔は管理費が出ていたと思うが、今はお一人の方がすべてやっておられる。大変だったと思うし、気の毒だと思う。

柳川部長 住んでいる人で管理するという意識を持っていただきたい。市では管理費を出していたと思うが・・・。

■ ②日野橋はできてから50年ぐらいになると思う。昔は木造の橋であったが。歩いているとよくわかるが、本当にボロボロの状態である。国の考え方もあると思うが、このような市民からの声がでていれば、真っ先に市の部長なりが確認するという返事をしてくれてもいいのではないか。

柳川部長 橋梁の点検は終わっていると思うので、すぐに確認はさせていただく。今は要望があれば担当職員なりに確認をさせて、2週間以内には返事をする。それが誠意だと考えている。

■ 防災無線についてだが、市営住宅にも設置できているのか？

市長 緊急告知放送機器ですが、ケーブル線を使っているの、市内では入っていない人もいるのではないかと思います。

■ 市営住宅の方に以前尋ねたら、前に入居されていた方が設置していなかったから、同じように設置していないという方がおられた。防災訓練のこともあり、そのような場合はどうなるのかと杞憂している。

柳川部長 市営住宅とかにはそういった周知をしなければと思う。

上村局長 転居（転入）された時に申し込みをしていない場合にそうなる。申し込みさえしていただければ設置可能である。今は無線電波で傍受できるようになっている。ケーブル線は関係ない。

■ 要支援の方の家で確認できなかったことがあった。

■ 人工林が増えて、山林から土砂が流出している。災害につながると杞憂しており、河川にクルミの木が繁殖して、あつという間に大きくなっている。河川環境に市側としてもっと気にかけていただきたい。下流側の宿南の河川敷なども同じような状況だとは思うが。

市長 人工林については細田部長、河川については柳川部長が答弁します。

細田部長 森づくりのことですが、森林環境譲与税という財源を活用して、整備をすすめているところです。今後も、そういったものを活用しながら、災害に強い森づくりを行っていきたいと考えています。

柳川部長 河川問題ですが、そうした依頼が120から130件ぐらいまち整備部に届きます。「河川の土砂をさらってほしい」「河川敷にある樹木の伐採をしてもらいたい」など、河川のことですから、養父土木事務所が管理しているものが多くありますが、県と市とで連携しながら、あくまで災害の危険がある箇所から順次、それぞれの立場で対応しているところです。何もしていないのではなく、順次対応しているということを理解していただきたい。

市の職員として長く携わってきた観光であるが、主要事業の中で観光という文字がどこにも見当たらない。加保区の中でも、ミズバショウ公園やあゆ公園などの施設がある。ミズバショウ公園は現在有志の努力で何とか天然記念物であるミズバショウの見守りを行っているが、建物も老朽化してきており、一度現地確認をしていただきたいとの思いがある。あゆ公園は駐車場が足りない問題があったが、会社側の資金で駐車場確保をされた。費用面や費用対効果の面で、最終的に会社側が対応することになったと聞いたが、観光に対する市の考え方なりを聞かせていただきたい。

市長

観光は、市の中でも重要な位置づけであると認識している。3年間のコロナのダメージが大きく、都市部ではインバウンド需要が回復してきているが、田舎ではまだまだであり、ダメージからの回復はできていないと思う。関西万博のこともあり、兵庫県が考えるフィールドパビリオンに養父市も積極的に関わっていくつもりである。主要な政策がある中で、観光に特化して触れてはいないかもしれないが、今後も力強くやっていく。大屋地域には多くの観光資源がある。先日完成したウイスキー工場なども観光に位置付けていく。あゆ公園の駐車場については、会社でやっていただくことがふさわしいということやっていただいたものである。

細田部長

外部から訪れる施設もあるし、地域振興という位置づけの施設もある。市内には商工観光に関わる多くの施設があり、それらの営繕等に職員が謀殺されながら取り組んでいる。観光協会なども、ホームページを見ていただいたらわかるが、目に見えるところで変わってきている。あゆ公園も市が出資している会社であり、市と会社のどちらかがというより、どちらが迅速に対応できるかという視点でやっていただいた。農地転用は市が責任をもって迅速に行ったものであるし、今後も限られた予算の中で対応していく。

閉会

あいさつ 米田教育長 21 : 21